

事務事業マネジメントシート(平成31年度実績と令和 2年度計画)

令和 2年 5月 1日 更新

事務事業名		小中学校情操教育実施事業				<input type="checkbox"/> マニフェスト関連 <input checked="" type="checkbox"/> 全庁横断課題関連 <input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	3	教育の健康			所属部	教育委員会教育部	課長名	右田 純司
	施策	9	義務教育の充実			所属課	学校教育課	担当者名	曾我 陽子
	施策の柱	33	徳育の推進			所属班	学務指導班	(内線)	5325
予算科目	会計一般	款 10	項 2	目 1	事業連番 10641 他	根拠法令			
終了、開始年度	<input checked="" type="checkbox"/> 31年度で終了 <input type="checkbox"/> 31年度から開始					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 20 ~ 31 年度) <input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度		

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	児童生徒の情操が豊かに育まれるよう、映画、演劇等の芸術鑑賞を実施した。 ※令和2年度より「小中学校運営事業」に統合廃止
【業務の流れ】	内容の企画立案、契約事務、実績確認事務、観劇料の支払い
【主な予算費目】	委託料
【意見や要望】	特になし

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分:
① 手段(主な活動) 31年度実績(31年度に行った主な活動) (DO)	児童生徒の情操が豊かに育まれるよう、映画、演劇等の芸術鑑賞を実施した。	2年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN) 前年度と同様に実施する
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 回 ア: 小学校で映画等の鑑賞を行った回数 イ: 中学校で映画等の鑑賞を行った回数	予算の主な増減の理由 事業統合したことによる事業費の減
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等 小中学校児童生徒	(単位) 人 ア: 小学校児童数 イ: 中学校生徒数	② 対象指標(対象の大きさを表す指標) ア: 小学校児童数 イ: 中学校生徒数
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 映画や芸術を鑑賞し、心豊かな児童生徒になってもらう。	(単位) % ア: 映画や芸術を鑑賞した児童の割合 イ: 映画や芸術を鑑賞した生徒の割合	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標) ア: 映画や芸術を鑑賞した児童の割合 イ: 映画や芸術を鑑賞した生徒の割合
*③成果指標設定の理由と 2年度目標値設定の根拠 社会規範が身につけている。		総トータルコスト 全体計画 ~31年度 0

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	29年度 実績(決算)	30年度 実績(決算)	31年度 目標(当初予算)	31年度 実績(決算)	目標(当初予算)	予定	見込	見込
① 活動指標	ア 回		7	6	6	6				
	イ 回		3	3	3	3				
② 対象指標	ア 人		4,548	4,694	4,755	4,785				
	イ 人		1,968	1,984	2,065	2,147				
③ 成果指標	ア %		100	100	100	100				
	イ %		100	100	100	100				
投 入 費 量	財 源 内 訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
	(A) 事業費計	一般財源	千円	4,075	3,974	4,449	3,601			
		(A)のうち指定経費	千円	4,075	3,974	4,449	3,601			
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0			
	人 件 費	正規職員従事人数	人	3	1	3	2			
		延べ業務時間	時間	150	20	32	350			
(B) 人件費計		千円	593	78	127	1,387				
トータルコスト(A)+(B)		千円	4,668	4,052	4,576	4,988				

事務事業名	小中学校情操教育実施事業	所属部	教育委員会教育部	所属課	学校教育課
-------	--------------	-----	----------	-----	-------

2 評価の部 (CHECK)

*原則は31年度の事後評価、ただし複数年度事業は31年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①31年度目標達成度評価	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【原因】
	②2年度目標達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 各学校とも時期にばらつきはあるが確実に実施されている。
有効性評価	③成果の向上余地	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 情操教育の一環として芸術鑑賞事業を実施するものであり、現状を維持していくためには、廃止・休止の影響は大きい。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 令和2年度より、小中学校運営事業に統廃合・連携する。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 必要最低限の事業費である。
	⑥人件費 (延べ業務時間) の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 必要最低限の業務時間である。委託するような業務量ではない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 義務教育の一環であり、一部の個人・団体に利益を生じさせるものではない。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 学校教育の一環であるため。

3 評価結果の総括 (CHECK)

小学校では、演劇鑑賞。中学校では、映画鑑賞と作品を選びすぎり鑑賞している。特に小学校での演劇鑑賞は、子ども達にとって貴重な体験になっている。

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (ACTION)

<p>(1) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可</p> <p><input type="checkbox"/>廃止 <input type="checkbox"/>休止 <input type="checkbox"/>目的再設定 <input checked="" type="checkbox"/>事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/>事業のやり方改善 (有効性改善)</p> <p><input type="checkbox"/>事業のやり方改善 (効率性改善) <input type="checkbox"/>事業のやり方改善 (公平性改善)</p> <p><input type="checkbox"/>現状維持 (従来通りで特に改革改善をしない)</p>	<p>(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持																					
	低下																					
<p>(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題 (壁) とその解決策</p>																						